# 【　推薦文　】

私は産婦人科クリニックで診療している産科医です。
田中先生には、週１回当院でオステオパシー施術を担当して頂いています。

田中先生には妊婦さんや不妊患者、一般婦人科疾患患者を主に診ていただいているのですが、的確な診断と治療技術に毎回驚かされています。

解剖の知識だけでなく、「世界観」が私ども一般の常人とは異なる視界をお持ちなのではないかと思っていました。そんな中、しばらく切迫早産の方が続いたことがありました。子宮頚管短縮が起きる、いわゆる子宮頚管無力症の方を医薬品や手術にて治療するのですが、どうしても治療抵抗性の方が続くため、オステオパシー的にどうにかできないかと紹介したところ、田中先生が「この方は眼に問題がある」と断言するのです。

普通の病院では「眼」と「子宮」とは別個に治療対象となりますが、田中先生の考えではこの患者には関連ありとのことで、当時の私は「？」でしたが、その施術後に確かに子宮頚管長が延長したのです。その患者は入院しなくて良いことに喜んでいましたが、私の心配にも関わらず、結局早産せずに自然分娩され、以来そのような方が数名続いており、眼と他臓器の関連について強く関心を持つようになりました。

今回、その背景、理論、実技がいち早くセミナーで公開されるとのことで、個人的には患者さんのＱＯＬが向上し大変喜ばしい事と思っています。

未踏の分野であり、今後の可能性は限りなく大きい。これは単純な技術公開ではなく、新たな哲学・原理原則の扉が開かれたのであり、受講者各々が発展させ、多くの技術が生まれていくのではないかと予感します。当日が楽しみです。

産婦人科医師　岡崎　光男